

令和8年度シラバス（芸術）

学番 28 新潟県立村上高等学校

教科(科目)	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	教育芸術社『高校生の音楽1』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①未知のものに勇気をもって向き合い、謙虚に、かつ、意欲的に学ぶ生徒の育成を行います。 ②他者への配慮と心のこもった挨拶や振る舞い方を身に付け、思いやりをもって他者に接することにより、真に信頼される生徒を育成します。 ③学校生活の様々な機会を通じて心と体を鍛え、自分の将来の目標に向け、覚悟をもって努力する生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①生徒一人ひとりの学力を高めるために、基礎的な学習の繰り返しにより知識の定着を図る指導を行います。 ②確かな学力に基づく問題解決力と判断力を身に付けさせるために、教科横断的な探究学習を行います。 ③専門分野に対する深い理解をもった職員が、質の高い授業を行い、学ぶことの面白さと喜びを伝えながら、生徒の教養を高めます。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
--

3 指導の重点

1 歌唱や楽器演奏体験を通して音楽の基礎的な能力を身につけ、読譜力や表現力を養う。 2 クラシック音楽や日本の伝統音楽を鑑賞し、各々の文化・歴史を考察し、声や楽器の種類や特性などを聴く力を身につける。 3 合唱やグループ活動などの活動から、他者とのコミュニケーションを図る能力を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解している。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・実技課題の内容 およびその内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実技課題の内容 ・授業記録ノートの内容 ・グループワークおよびプレゼンテーションの内容などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業時の観察 ・グループワークやプレゼンテーションへの参加意欲や姿勢などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材	学習活動	評価の観点	評価方法
4	音楽視野の拡大 音楽の諸要素の聴取	5	校歌楽譜教科書	- 曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。 - 楽譜の正しい読み方や書き方を身に付け、表現に生かすようにする。 - 旋律の特徴を理解してイメージに合った表現を工夫する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録ノート
5 6	歌の楽しみ ピアノ曲の鑑賞	14	教科書	- 曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるよう工夫する。 - 鍵盤楽器の歴史について学び、楽曲を鑑賞する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録ノート
7	ギターの弾き歌い クローズアップ マエストロ W. A. モーツァルト	6	教科書	- ギターの正しい奏法を身に付け、コード表を見ながら演奏したり弾き歌いしたりする。 W. A. モーツァルトについて学び、楽曲を鑑賞する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録ノート
8 9	和楽器（三線）の弾き歌い 創作表現の探求	6	教科書	- 調弦や勘所の押さえ方など、三線の正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。 《ていんさぐぬ花》の旋律に音を加えたり、リズムや拍子などを変えたりした例を参考にして、変奏する。 《ていんさぐぬ花》の旋律にハーモニーとベースのパートを加えて三重奏に編曲する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録ノート
10 11	リコーダー・アンサンブルの楽しみ 和楽器（篠笛）の演奏 篠笛と太鼓による合奏 日本の伝統音楽の鑑賞	13	教科書	- リコーダーの正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。 - カノンや二重奏でアンサンブルをする。 - 唇の当て方や運指など、篠笛の正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。 - タイミングを合わせてアンサンブルをする。 - さまざまな日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録ノート

月	単元名	授業 時数	教材	学習活動	評価の 観点	評価方法
11 12	ギターの楽しみ 器楽アンサンブルの楽しみ 主題と構成の聴取 What is JAZZ?	6	教科書	- ギターの正しい奏法を身に付け、TAB 譜やコード表を見ながらメロディーまたは伴奏パートを演奏したり弾き歌いしたりする。 - 曲種の特徴を知る。 - パートの役割を理解して、音色の特徴を生かしながらアンサンブルをする。 L. V. ベートーヴェンについて学び、楽曲を鑑賞する。 - ジャズについて学び、楽曲を鑑賞する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録 ノート
1 2 3	ヴォイス・アンサンブルの楽しみ ①合唱曲 ②ヴォイス・アンサンブル 創作表現の探求 2 クロス・アップ マエストロ J. S. バッハ 世界の諸民族の音楽 学習のまとめ	14	教科書	- ハーモニーを感じながら合唱する。 - ハーモニーを楽しみながらタイミングを合わせて二重唱をしたり、ヴォイス・パーカッションでアンサンブルをしたりする。 《虫のこえ》や《鳥たちの饗宴》の例を参考に、リズム・アンサンブルをつくる。 - 示されたコードやベースをもとにメロディーをつくったり、パートを重ねたりする。また、発展させたメロディーにコードを付ける。 J. S. バッハについて学び、楽曲を鑑賞する。 - 世界の諸民族の音楽について学び、曲を鑑賞する。 - 音楽 I の授業で学んだ内容が自身の音楽との関わりにどのように影響しているか発表する。	a b c	観察 実技課題 グループワーク 授業記録 ノート プレゼンテーション

計 64 時間 (55 分授業)

5 課題・提出物等

・授業記録ノート

6 担当者からの一言

歌唱や楽器演奏を通して音楽を表現する喜びを体験しましょう。
 伝統音楽の歴史を学び鑑賞する力を育てましょう。
 グループ活動を通して仲間と一緒に音楽を創り上げる喜びを体験しましょう。